

ただいま、敬愛します瀬戸恵津子議長より発言の許可を得ましたので、一般質問をさせていただきます。

「(仮称)山北スマートインターチェンジ供用開始に伴う広域幹線道路の実現性は」

新東名高速道路は、新秦野インターチェンジから新御殿場インターチェンジ間の工事が難航しており、当初の計画より4年遅れて、2027年度に全線開通する見込みであると同時に、(仮称)山北スマートインターチェンジの供用も始まる。

議会では、多くの議員が(仮称)山北スマートインターチェンジ完成を機に、山梨県や相模原市等へつながる幹線道路開通に向けた一般質問がなされてきた。町長は、(仮称)山北スマートインターチェンジが完成することで本町へのアクセスが向上し、観光客の増加や企業活動の活性化、さらには広域的な交通拠点が形成されるため、形成地域のみならず県域を越えた地域と連携が取れ、地域活性化にもつながる効果が期待されると答弁されてきました。

そうした中、町では丹沢湖周辺から東・西・北へ抜ける道路の状況を確認するため、県と合同で現地調査を行っていると説明がされました。町長は北へ抜ける道路をはじめ、町域を越えた道路の必要性については十分認識されており、引き続き県に協力をいただきながら、本町における仮称スマートインターチェンジを中心とした広域幹線道路の必要性や効果などを整理した上で、既存の道路を含め検討を進めていくと何度も発言をされております。

そこで、2年後に(仮称)山北スマートインターチェンジの供用開始を控えた現在も、その調査結果や今後の方針が示されていないことから、広域幹線道路について以下の質問をします。

1番、丹沢湖周辺から東・西・北への町域を超える幹線道路の調査結果は。

2番、富士箱根伊豆交流圏、いわゆるSKY広域圏における本町に関わる幹線道路の状況は。

3番、小田原・甲府線の県域を超えた幹線道路の再検討は。

4番、(仮称)山北スマートインターチェンジ供用開始に伴う広域幹線道路の必要性と今後の取組は。

以上です。

議長 答弁願います。

町長。

町長 それでは、府川輝夫議員から（仮称）山北スマートインターチェンジ供用開始に伴う広域幹線道路の実現性についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の丹沢湖周辺から東・西・北への町域を超える幹線道路の調査結果についてであります、本町では令和2年6月に山北町における広域的な道路ネットワークに係る意見交換会を設置し、県をオブザーバーとして迎え、これまでに会議を7回、現地調査を4回開催し、本町の将来的な広域道路ネットワークの在り方について検討いたしました。

幹線道路の現状と課題を踏まえ、広域的な視点に重きを置き検証した結果、三保地域の丹沢湖周辺から町域を超える幹線道路が未整備であることが大きな課題となっていると結論づけました。そして、丹沢湖周辺から東部・北部・西部の3方向のルートについて、道路交通の円滑化、地域の広域的な活性化、災害に強い道路網の三つの観点から、比較・検証した結果、北部ルートを優先的に検討することが適当と判断いたしました。

なお、この意見交換会は、国の「構想段階における道路計画策定プロセスガイドライン」に基づき検討を進めており、第7回の会議では、相模原市方向への北部ルートの複数案の設定について検討いたしましたが、道路整備については難しい状況です。

次に、2点目の御質問の富士箱根伊豆交流圏（SKY広域圏）における本町に係る幹線道路の状況についてであります、富士箱根伊豆交流圏域の道路整備については、山梨・静岡・神奈川三県広域問題協議会道路検討部会において、県が中心となり路線ごとに意見交換や検討を行い、整備に向けての課題や今後の方針などを整理しております。

この部会では、本町に係る幹線道路のうち、高規格幹線道路として新東名高速道路、また県境をまたぐ道路として国道246号（山北バイパス）、県道山中湖小山線、（仮称）小田原・甲府線を検討対象としております。これら4路線のうち、3路線については課題はあるものの、おおむね計画的に整備が進められておりますが、（仮称）小田原・甲府線については構想レベルでも

あり、現状の交通量や地域特性から判断すると、ネットワーク上の重要性は低い状況と評価されており、関係自治体による研究会も既に解散しております。

次に、3点目の御質問の「小田原・甲府線の県域を越えた幹線道路の再検討は」についてですが、（仮称）小田原・甲府線は、小田原市を起点に南足柄市、開成町を経由して、本町の西丹沢ビジターセンター先の林道終点付近から県境を越えるトンネルを整備し、山梨県道志村、上野原市にアクセスする道路構想であります。

この道路構想は、平成9年度に山梨県道志村から本町へ協力要請があつたことが契機となり、平成12年度に山梨県、静岡県、神奈川県の関係自治体を構成員とする研究会を設置し、路線の必要性、整備効果、概略ルートなどの検討を始めました。

研究会は、平成12年度から20年度までの9年間にわたり開催し、研究会における調査研究が一定の成果を上げたものと判断し、平成21年3月にこれまでの取組を整理・確認した上で解散いたしました。

（仮称）小田原・甲府線は、神奈川県と山梨県の複数の自治体にまたがる路線であるため、この路線を再検討するに当たっては、関係自治体における道路整備の必要性や優先度などの温度差の解消が必須であり、現状では大変厳しいものであると考えております。

次に、4点目の御質問の（仮称）山北スマートインターチェンジ供用開始に伴う広域幹線道路の必要性と今後の取組についてですが、新東名高速道路（仮称）山北スマートインターチェンジが設置されることに伴い、周辺地域の土地利用や交通状況など、本町を取り巻く環境は大きく変化いたします。

そうした中で、1点目の御質問で回答したとおり、本町における今後の広域的道路ネットワークの在り方を検討した結果、隣接自治体である相模原市などへのアクセスが容易となる北部ルートを優先的に検討することが適当と判断いたしております。

広域的な道路ネットワークに係る意見交換会における検討内容については、相模原市の道路所管課にも随時情報を提供しておりますが、市では令和4年

3月に「第2次相模原市新道路整備計画」を策定し、市の道路整備の中で必要性や重要度が高い26ある優先整備箇所の事業推進を図る考えでおり、本町と接続する道路は計画に位置づけられておりません。

また、県においても、相模原市と本町をつなぐ神の川林道の災害復旧工事を実施する考えはありますが、主要地方道山北藤野線を相模原市まで延伸する考えは全くないとの見解であります。

このような状況の中で、一基礎自治体が北部ルートの道路構想を政令市である相模原市や県への要望活動につなげていくためには、職員体制の充実や多額の調査研究費が必要不可欠になると考えており、今後の取組については、相模原市の意向や県の考えを注視し、（仮称）山北スマートインターチェンジの供用開始後の交通環境の変化を見据えた上で判断してまいります。

議長 府川輝夫議員。

8番 府川 ただいま答弁をいただきました。

多分答弁の結論からいうと、山北は相模原への北部ルート、これに熱い気持ちちは持っているけども相模原当事者の中の優先順位は低いから計画にも載ってないよと。県のほうも基本的には同じ考えだよというようなことだと思います。これは、基本的に山北が必要としている要因と、相手側が必要としている要因とのやっぱりその差があるからだというふうに考えております。

改めて、議事録にも関係しますので確認をさせていただきますと、三保地区の丹沢湖から東・西・北への道とは、東は秦野峠林道、西は水ノ木幹線林道、北は犬越路林道のことによろしいのでしょうか。

議長 企画総務課長。

企画総務課長 山北町における広域幹線道路の検討におきまして、三つのルートを検討しておりますが、東部ルートに関しましては、こちらは246から新東名へ行けるということで、国道を使ったような形の道路も一部入っております。

北部ルートに関しましては、相模原の圏央道の相模湖のほうのアクセスと、あと道志村の2ルートのほうの検討もこちらの北部ルートについては含まれております。

西部ルートに関しましては、先ほど言わされました山中湖村に行くようなルートになっております。

- 議長 府川輝夫議員。
- 8番府川 繰り返しますと、北部ルートは相模原に行くほうのルートと、それと昔からの甲府線の関係の二つのルートが考えられる。考えられるというか、想定してるとかいうか、検討の材料にあったと。東は秦野林道と、あとスマートインターチェンジができる246で東に行くようなもの。要するに二つずつあって、西は大山に行くほうの1か所というふうに確認をさせていただいてよろしいでしょうか。
- 議長 企画総務課長。
- 企画総務課長 そのとおりでよろしいと思います。
- 議長 府川輝夫議員。
- 8番府川 答弁書にも書かれてますけれども、三保地区の丹沢湖周辺から町域を越える幹線道路は未整備であることが課題となっていると。この言葉って5次総合計画にはなかったですよね。6次総合計画からこの言葉。
- 要するに、道路の必要性は丹沢湖周辺の三保地区が多分孤立してしまうから、これを改善するためにという目的が今回6次総合計画では改めて出たわけですよね。ですから、この総合計画の道路に関する思いと、あと町長の考え、それが三保を孤立させてはいけないよというふうに考えた結果、こういう3方向5路線を考えていかなくてはいけないよということだと思うんですけども、それに間違いはないでしょうか。
- 議長 町長。
- 町長 そのように、やはり三保地域については孤立化することは災害時には想定されますので、何とかそれを防ぎたいということで三つのルートを検討したわけでございます。
- 議長 府川輝夫議員。
- 8番府川 答弁に、北に相模原に抜ける道を最終的には山北町としては考えていったいというのは答弁書の中でも分かるんですけれども、3方向5つの案があって、ほかの案を取らなくて相模原のほうに行く案になったというところの説明をもう少し詳しく説明していただければと思います。
- 議長 企画総務課長。
- 企画総務課長 この後の回答にもございますように、小田原・甲府線、そちらの部分に關

しましては道志のほうから当初つながる道をというお話があつたんですけども、道志のほうが山北ではなく中央とつながるような、都留市とのトンネルのほうの計画を優先的にするということで、道志のところの方向性が逆を向いてしまったというところもありまして、なかなか相手先が同じ方向を向いてないということもありますし、道志のほうに関しましてはなかなか難しいというところで、こちらも平成21年の3月にやめてるということもありましたので、その可能性を残した中で検討したんですけども、やはり相模原のほうに行くほうが現実的ではないかということで検討を進めたような経緯でございます。

そのときに、3方向が全部まとめてできれば一番理想的なんんですけども、費用対効果等を検討したときに、西部と北部に関しましては評価的には非常に高かったので、まずどちらかという話もあつたんですけども、最終的には広域的な観光ルートという部分を加味しまして、西部ルートに関しましては富士山の火山噴火というのも考えまして、災害時に利用できるというところも加味した中で北部ルートを最終的に優先的に決めたという形になっております。

議長 府川輝夫議員。

8番 府川 予想しますと、3方向五つのルートの案があつたけども、現在は相模原に抜ける道、将来的には分かりませんけども、現時点では相模原に抜ける道を優先的に山北としては考えていくということで間違ひありませんか。

議長 企画総務課長。

企画総務課長 そのとおりでございます。

議長 府川輝夫議員。

8番 府川 今課長から説明があつたように、平成20年、年でいうと21年の3月から取りまとめをつくって、私たちもその報告は、当時私議員ではありませんでしたけどもその後町から資料を頂いて、それらを基にまた道志側の議員さんたちといろいろ交流をしていった。そういう経過を今ちらつと思い出しましたけれども、今の説明のように当時平成20年、21年、22年ぐらいだと思うんですけども、まだ明確ではなかつたんですけども道志村と都留に3キロ程度のトンネルを掘って、県道を直結することによって非常に道志村が利

活用がよくなると。

向こうの議員の方もよく言われてたんですけども、道志村の子どもたちは高校から都留に行くらしいです。就職も都留のほうが多いらしいのです。だから、プライオリティから言ったらナンバー1は都留との関係。そして二つ目は相模原との関係。相模原との関係は、国道が曲がっていて県管理の国道なんです、多分。それをバイパスを造って、もっと短い時間で相模原のほうに出ると。ですから、まとまつたちょっと1年、2年たつた後はもう道志村は南に向かわなくたっていいのではないかと。それで都留のほうに向かうのが第1。相模原に向かうのが第2。それぞれ時間の経過があつたんですけども、道志村あるいは近隣と合意がされて、今トンネルはもう進んでると思います。バイパスのほうも進みつつあると思います。

実は山北の思いと、相手から言ってきたにもかかわらず、気がついて10年も12年もしたらその道を一番希望するのが山北なんだよということだと思います。ですから、総合計画に三保を孤立しないために北に道を造っていくという熱い思いが、繰り返しですけど出でると思うんです。

説明もありましたように、繰り返しになりますけども、相模原市・県がこういう意向がないよということですけども、改めて町長の考え方あるいは時間を使ってでも何とかしていくというようなところを含めて、これ一番最後に聞けばいい話かもしれませんけども、その辺のお気持ち、考え方、方向性をお示しいただきたいと思います。

議長 ちょっとよろしいでしょうか。町長、申し訳ございません。少々お待ちください。

ただいま、野地新東名対策室長が体調不良のため退出させていただきたい申出が出ておりますので、御承知ください。

では、町長申し訳ございません。

町長 基本的には府川議員がおっしゃったようなことで、ずっと平成二十何年頃からいろいろな東、西、東、北ルート、西ルートというようなことと、それから小田原・甲府線の道志というようなものが、どちらにしてもどこかがでければ孤立化を防げるということで、何とかそういうようなものをできないかということで、県の既存の道路にしては一応相模原市をみんなで相談した

中で優先順位を決めたということでございますけれども、相模原市さんも政令指定都市になっておりますので、県ではなくて相模川市さんが道路をやらなければいけないということでなかなかハードルが高いということで伺っております。

それから甲府線については、今現在県をまたぐということで、SKY圏の中で私も何度か部会のほうで報告を受けましたけれども、その優先順位がかなり低いということと、それからSKY圏そのものがどうやら解散というような話になっておりますので、やはり相当実現には難しいというふうに思っておりますので、今としてはとにかく孤立化を、仮に北ルートでなければほかのルートでも何とか実現できないかというふうに思っておりますので、その中で考えていきたいというふうに思っております。

議長 府川輝夫議員。

8番府川 今SKY圏、富士箱根伊豆交流圏のお話がちょっと出ました。解散をしていくのではないかと。コロナ以前のSKY圏の活気のあった、もっと20年ぐらい前はもっと活気があった。そして甲府に向ける小田原・甲府線も、いわゆる昔の活気と違って、十数年前はニーズが少ないみたいな書きっぷりになって、私もその席上で随分反論してニーズはあるよという話もさせていただいて、若干、活気っぷりは変わったにしてもまだ項目的に残っていてありがたいなぐらいのところがあったんです。町長はよく御存じでしょうけども。

SKY圏は今この会議体は何をしていて、そして今解散の方向と言われましたけども、具体的にどうなっていくのか。要するに、平成20年の報告、21年の3月の報告ではこれをSKY圏に項目として出して、そしてみんなでやっていこうよという前提があったと思います。ですから、SKY圏に対してもここの道路だけではなくて幹線道路を真剣に考えていこうというような状況が。その後状況はいろいろ変わったかもしれませんけども、SKY圏は最近どんな事業を活動されていて、具体的にいつ頃なくなっていくのか。なくなっていく背景、要因等をお聞かせ願いたいと思います。

議長 企画総務課長。

企画総務課長 道路のまず検討の話をさせていただきます。

こちらの富士箱根伊豆交流圏の構想、こちらが平成の21年度から平成の30

年度の10年間という中で行っているような状況になってます。先ほどお話をさせていただきました質問の3点目、小田原・甲府線の検討は21年3月に終わったということで、町といたしましても引き続きこちらのほうに計画として上げたいということで、SKY圏のほうにも小田原・甲府線というのが位置づけをされてその後10年間検討はしたんですけども、こちらの答弁にあるように現状が非常にまだ構想レベルというところと重要性が低いということで、評価的には低いという中で平成30年にこちら一度終わっているような状況になります。

近々の状況につきましては、すみません。私詳細あまり把握していないのですけれども、この内容についてはなかなか活動はしていないというような認識ではあります。

議長 府川輝夫議員。

8番府川 確認しますけれども、消滅する、解散する方向だというのは事実なのか。あるいはもう解散したのか。その辺ちょっとお聞かせ願いたいと思います。

議長 企画総務課長。

企画総務課長 その部分に関しては、この後確認をさせていただいて回答させていただきたいと思います。

議長 府川輝夫議員。

8番府川 SKY圏3県で、富士・箱根・伊豆の観光地で接してるところが一緒になってやるよという活動は、非常に個人的にも必要なこと。道路に限らず、これからも形というかいろいろテーマがあると思いますので、統ければ一番ありがたいなとは思いますけれども、これは山北だけで決められる話ではありませんので、時代の流れが何かつらい方向だなというようには感じではあります。

これに関係して、さっき秦野峠林道の話を出しましたけども、県営秦野峠林道については協議会を松田と開催をさせて、広域連携の協議会を松田町と県営秦野林道に関する協議会をつくっておると思いますけども、つくった目的。これは多分10年ぐらい前なのかな。ちょっと正式には覚えてませんけども、10年あるいは10年ちょっと以上前かもしれませんけども、協議会をつくった目的あるいは必要性。そしてそのメンバー。そして、今どんな活動をし

ているのか説明をいただければと思います。

議長 農林課長。

農林課長 林道秦野峠線につきましては、今府川議員おっしゃったとおりに、松田町と山北町がそれぞれ平成27年度に林道連絡会を設置しまして、翌々年の平成29年度には県営秦野峠林道に関する広域連携協議会ということで、松田と山北が一緒の協議会として設立されました。

メンバーといたしましては、松田町のほうから議会関係者として2名、副町長、また地元自治会長、それと松田の役場の政策系や林業系という役場の職員、また山北町も同様に副町長をトップといたしまして議会議員2名、連合自治会長、自治会長、それと役場の関係課の課長という形で、それぞれ松田のほうが観光経済課、山北のほうが農林課が事務局として開催・設置されたものでございます。

当時その協議会自体が、まず一つは災害時における緊急避難路の役割を持つような整備をしてもらいたいということを県に要望する。併せてイベント等、当時はおそらく丹沢湖花火大会とかを想定してたんですけども、そのときのイベント時の渋滞緩和に対して迂回路として一般通行が臨時に可能になるような道路整備を県のほうに要望すると。大きく分けてこの二つを目的として、割と頻繁に年に1回、2回を想定して開催されていたと記録にはございます。

ただ、令和元年度あたりから自然災害の度合いがかなり強くなりまして、当初は結局林道レベルではなくて一般通行が可能になるような再整備を県に要望してたんですけども、もう通行止めというか崖や道路地盤が崩落するような大規模な災害が複数箇所に起こって、それどころではないと。まずは林道としての機能を回復するようなものをやってくれというような要望に変わってきまして、現在昨年度、実は全線開通を一旦したんですけども、最新の情報ですとこの8月にやはり松田町寄りの山北地内のところで大規模な崩落がございまして、こちらの崩落の復旧も年度末ぐらいまでかかるという状況で、現在はやはり緊急輸送を、簡単に言うと救急車等が通れる程度の道路にしてもらえないかというような形で要望するということで、山北町と松田町の意見を統一して県要望等に上げているというような状況でございます。

議長 府川輝夫議員。

8番府川 そうすると、会議体自体は休止になっているということでよろしいでしょうか。

それとあと、今の説明は分かったんですけども、協議会としてはこれからどういうふうな方向に行くのか説明いただきたいと思います。

議長 農林課長。

農林課長 先ほども申し上げましたけども、会議体が止まった理由がもう一つ、いわゆるコロナで会議ができなくなったというのも手伝いまして、現在令和元年度以降は開催されてないという形で、松田の事務局のほうにも確認しましたが、取りあえずは先ほど言った緊急輸送路として使えないかというような形で、県要望に統一した要望を出していくというような形で、令和8年度もそういう形にしてございますので、今後そのまま特に県の回答によりますけども開催すると。取り立てて休止にしているということではないんですけども、状況が今そういう状況ですので開催はしていないということでございます。

議長 府川輝夫議員。

8番府川 令和何年かちょっとはっきり覚えてませんけども、2年だか3年ぐらいに、知事との懇話会で町長も緊急事態に道路が必要だよということで、多分松田町の町長とお二人の合意形成の上の発言だと思うんですけども、秦野峠林道を復旧というか緊急時に使えるようにというようなことがあったかと思うんですけども、現状は今の課長の説明で分かりましたけれども、何年かたつた今改めて町長の秦野峠林道に対する考え方を説明いただければと思います。

議長 町長。

町長 私どもとしては、とにかく再三申し上げるとおり、三保地区が何か災害があったとき孤立化してしまうというようなことを何とか防ぎたい。それは逆のことを言えば、松田の寄地区も似たようなものですから逆に孤立化するということですから、双方の孤立化を防ぐためにはやはり緊急時にはそこを使わせていただくというようなことで、これからも県のほうにお願いしていくというふうには思っておりますけれども、それだけでなくて、本当に大きな災害が起こったときにどういうふうな方法が一番いいんだろうかというふうに考えると、仮に孤立化した場合にはヘリか何かで輸送するというような

ことを考えなくてはいけないということになると、やはり両地域でそういうふたようなヘリポートとか、そういうふたのようなものも考えていかなくてはいけないのかなというふうには思っておりますけど、どちらにしてもいろんな構想の中で今現在は秦野峠林道についても双方の孤立化を防ぐというようなことで、緊急時にそういうふたのようなことができないか。そういうふたのことなどで考えていきたいと考えております。

議長　府川輝夫議員。

8番府川　ヘリコプター等の活用というのも、これまたいいアイデアで考えていいかなくてはいけないとは思いますけども、今日は道路のテーマですので道路に戻りますと、私もここにいらっしゃる何人かの議員と秦野峠林道を1日歩いて、それで寄まで行った経過があります。結構脆弱な、私何度か通ったときも2か所ぐらいですか、そんなにひどくはなかったんですけども崩れていて、県のほうはやっぱりリスクが伴うことを非常に嫌がるわけで、何かあったらということを常に頭に想定をされて安全ではないから使わせないよという。私自身も歩いたらここはちょっと脆弱性があるなと。

一方で、使って少しでもつながりを、もともとあれは地域をつなぐための道路でできたわけでしょうから、それができれば一番いいなとは思うんすけれども、なかなか脆弱性があつて使わせろよと言いながら心配な面もあるんですけども、そのリスクを回避する方法とか、その辺大災害が多いからさっきの説明でも近年はさらに直してもまたすぐだという状況なんでしょうけども、そんな対策というのは何かいいアイデアはないのでしょうか、町長。

議長　町長。

町長　最初の頃からいろんなことがあって、一番最初の頃は黒岩知事が知事になったばかりのとき、幽神のところへ行ったとき青崩トンネルを造ったんですけど、そこから先とか行くところがかなり心配だということで私は申し上げたんですけど、あのときに知事はそんなの大丈夫だよと。みんなで囲っちゃって車に行けば大丈夫だよというようなこと言ってたんだけど、今現在は全然逆の方向になってまして危ないとか危険だというふうにはありますけども、私としてはやはり普通の平時に行くのは地域の方も不法投棄とかそういうことで反対してるようですから、やはり緊急時に行けるようにするには当然

石か何かが落ちてるところがかなり多いというふうに思いますので、それらをどかせるようなものを県のほうにも持っていただいて、まずそれで通っていっていただければそれなりに通れるんじゃないかなというふうに思いますので。それ以上大きな崩れがあった場合にはそう簡単にはいかないんですけど、やはりそういったような簡単な石をどけるような車とかそういったようなものは必要ではないかというふうに私は思っております。

議長　府川輝夫議員。

8番府川　再三同じことを言うようですが、今回の第6次総合計画と5次の総合計画の大きな違いは、先ほど申しました前半の目的の部分、丹沢湖を孤立にしてはいけないよということが明確に出ていた。明確に出したのであれば、道路に限定をしないことも含めて、限定というか、道路だけではなくて幅広くいろいろなことの対応を考えながら、6次総合計画に新たに書いたその丹沢湖を……ごめんなさい。三保地区を孤立させないということを、ぜひとも始まって2年度ですからやっていただきたいなというのと、それとあと6次総合計画には富士箱根伊豆交流圏、いわゆるSKY広域圏が、前は広域基幹道路の整備促進の項目だと思ったんです。ところが、第6次総合計画には残念ながら地域交流ということで、書きっぷりも観光振興や防災対策において連携を図っていくと。そして、先ほど聞きましたら消滅していくのではないかというような話で大変残念なんですけども、繰り返すようですが、やはり一番大切なのは三保地域を孤立させない。

そのためには、先ほども何回も説明していただきましたけども、相模原に行く道を山北としては優先、プライオリティナンバー1として考えていくと。ところが、現状は相模原市も県もその気がないと。そうすると、その話はやめてしまうのか。いや、少しずつでも何年かかろうとやってくれというお気持ちなのか。先ほどもちょっと言っていただきましたけども、その辺も町長の覚悟というか気持ちをもう一度お聞かせ願いたいと思います。

議長　町長。

町長　私としては、今相模原市さんの意向というのは政令指定都市では当然そういうような考えがあるということは理解しておりますので、そういった中で考え方方が少しでも前へ進めばぜひそのルートも検討していきたいと思います

けど。ただ、今の現状では時間が相当かかるということですから、秦野峠林道を先にやるのかというようなことも県のほうにお願いしなくてはいけないなというのが一つ。

それから、今現在総務省さんは孤立化についていろいろなプランをお持ちです。今現在、もう具体的には何というのですか。孤立化しない道路を造るとか何かというのは、総務省さんとしてはそう簡単にはできるあれではないですから、要するに孤立化したときに1週間とか2週間十分な物が貯蔵されているというようなものに補助金を今非常に。例えば、道の駅があればそのところに集中的にそういうものを置くのに国の助成をするというようなことをやっております。

そういういたいいろんなものも山北町としては考えていかなければいけないなというふうに思っておりますので、孤立化したときには例えば食料ももちろんですけど医薬品であるとか、あるいはエネルギーである、バッテリーであるとか燃料であるとか、様々なものが必要になるというふうに思いますので、そういうものを貯蔵していくものに国の制度を使えるのであれば、それも一つの方法でやっていかなくてはいけないなというふうに思ってますので、現在も能登の地震を教訓にして様々な制度は総務省さんの方で考えておりますので、それが町に使えるものがあれば積極的に使っていきたいというふうに思っております。

議長 府川輝夫議員。

8 番 府 川 小田原・甲府線のきっかけは、先ほど説明があったように道志村から要望があつて、それで当時はあれですね。平成12年度に山梨県は道志村と山中湖村、静岡市は隣の小山町、そして神奈川県は小田原市、南足柄市、中井町、大井町、開成町、この山北町を含めて2市6町2村の集合体が一緒にやろうよと。山北と道志村だけの話ではないよということの中で動き出して、そして最後のほうは、さつきもちょっとと言われましたけれども、上野原市も入つて3市6町2村でやろうよという。せっかくそこまでいってまとめ上げて、これからよいよ実行する推進だよと言ったときに、先ほどの道志村の事情でだんだん消えていった。

今回は、私は別に道志村のほうにこだわるわけではないんです。北に向

て、相模原のほうに向ければまた縦貫道、そして広域の観光ルート、経済も発展するでしょうし、そして何よりも一番大切な丹沢地区を孤立させない。相模原市の考え方は説明でも分かりました。ただ、相模原市のはうに一つでも糸口何かないのでしょうか。それと、前回のように3市6町2村とまでいかなくとも、周りを巻き込んだ活動、動きというのが必要ではないか。できるのではないかと思うのですけども、相模原市の糸口ともう少しみんな仲間を集めてやろうよというような考え方は町長お持ちでしょうか。

議長 町長。

町長 実際に何度か県のほうにも、あるいはまたいろいろなところでそれを相模原市さんと推進するというので、いろいろな過去のデータとかそういったものを調べて県のほうにも申し上げました。しかし、結論としてはとにかく相模原市さんが政令指定都市になったわけですから、その中の県の立場というのがありますから、先ほどの答弁でも林道については計画があるよというようなことをおっしゃってますけど、抜ける道路についてはやはりまだ何というか相模原市さんの政令指定都市としての考え方になりますので、その辺は諦めるわけではないんですけど時間が相当かかるだろうし、またそれが実現するかどうかも確かではございませんので、具体的なもっと実際に災害リスクが起こるか分かりませんので、起こったときに対応できるような方法を複数考えていきたいというふうに思っております。

議長 企画総務課長。

企画総務課長 先ほどの富士箱根伊豆関係の解散ではないかというお話なんんですけども、すみません。今年度7年度末、令和8年の3月をもって解散ということで今動いております。

議長 府川輝夫議員。

8番府川 大変寂しいニュースを聞かせていただきました。

最初、相模原のルートについては非常に厳しい。実現ができるかできないか。私もそう思います。厳しい。だけど、山北町が困っていて必要な町は山北町さんですよね。可能性が低くても、ハードルが高くても困難であっても、その道を諦めずにこれからもさらに調査研究をし、相模原市を中心に折衝していく。そういう気持ちで、覚悟でいらっしゃるということを確認をさせて

いただければと思います。

議長 町長。

町長 おっしゃるとおり諦めるということではなく、いろいろな可能性ができないかと。仮に一遍につながらなくとも段階的にやれることがないかとか、そういうふうに思ってますので、私としてはあくまで道があるわけですから、それらを実際に緊急時に使えるようにぜひしたいというふうに思っております。

議長 府川輝夫議員。

8 番 府川 終わります。